



SUPPORTING
CHINA
BUSINESS

LT CONSULTING GROUP

2011 年 5 月 3 日

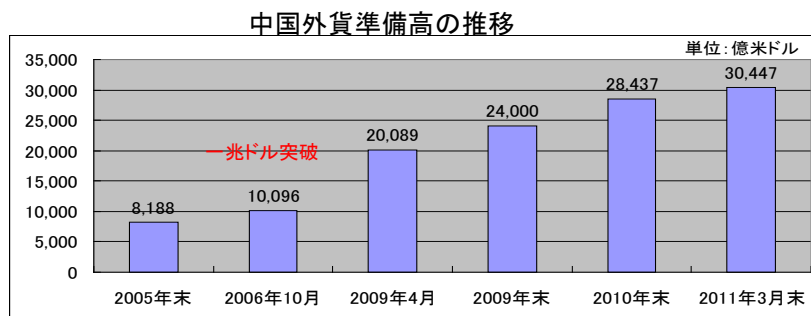
「LT会」会報第 11-08 号(総 85 号)

3 兆ドル超の外貨準備をどうする？ —人民元の自由化加速か—

上海良図商務諮詢有限公司

世界一の外貨準備高(下の図は中国の外貨準備高の推移)、世界一の米国債の保有国中国は、4 月 18 日に米国格付け会社 S&P が米国債に対する格付けをポジティブからネガティブへ変更したこと(つまり向こう 6 ヶ月ないし 12 ヶ月以内に米国債格下げの可能性が高まった)に対してかなり敏感となった。

同日、中国人民銀行行長(総裁)は中国が実需以上の外貨準備を有し、市場に過剰流動性をもたらした、と述べた。



今後注目しなければならないのは、中国中央銀行の外貨管理改革であり、その改革のスピードテンポを上げることは必至である。早めに外貨準備高を減らさなければ、中国は世界のどこの国より米国債下落のリスクを負うことになるが、どのような方策をとるかが中国人民銀行を悩ませている。

外貨準備高減少につながる改革としては 人民元の自由交換の実現、中国人個人による対外投資の外貨購入自由化の方向になる可能性が高いのではないと思われる。

一方現在人民元対米ドルが上昇し続けているが、その下落リスクはないのだろうか？

短期的に見れば、人民元は堅調に推移するとおもわれるが、長期的に見ると、この 10 年間の推定 2800 億米ドルの投機資金の行方により、来年後半以降人民元上昇がとまり、不動産価格の上昇の魅力がなくなると、人民元の下落リスクにも警戒する必要がある。

以 上